

# H29年度 相談体制部会振り返り・評価シート

H30年2月16日作成

## 1 今年度の活動について

### 【今年度の方針】

<方針>

・部会で検討をした内容を障害福祉計画に反映させることを目標に、課題の整理をおこなう。

<具体的取り組み>

・委託相談支援について、現行の体制から地区割りへの体制に再編するにあたり、課題の整理と課題の優先順位を検討する。

・優先度の高い課題については、具体的な解決案や数値目標を検討し、障害福祉計画に反映できるよう提案をおこなう。

### 【今年度の取り組み内容】

開催回数	11回	開催月	4月～1月・3月
------	-----	-----	----------

### ○具体的活動内容

・相談体制の再編について、情報の共有

・相談体制の再編について検討

※計画相談支援・障害児相談支援ワーキングは、相談体制の再編の一環として実施をしているため、合同開催をし、情報共有をおこなった(きめ細やかなモニタリングが必要な対象者の検討、適切な計画相談・障害児相談の実施に向けた検討の共有)。

### ○取り組みの結果及び成果

※成果はモニタリングを実施した場合のみ

・相談体制の再編について情報共有をおこなった。

→障害者基幹相談支援センターのヒアリング結果等から見えてきた、長岡市の相談支援の現状と課題を共有した。

→相談支援専門員のキャリアパスについて情報を共有した。

・相談体制の再編について検討をした

→地区割り、委託相談の業務と必要人数の検討、人材確保について、現場の意見を行政に伝えた。

→地区割り、委託相談に必要な人数、委託相談の業務内容については方向性が決定した。

→計画相談支援・障害児相談支援ワーキングと合同開催の際には、現場の意見を行政に伝えた。

・検討をする中で見えてきた課題から、災害時の対応者リスト、委託相談対応者リストの作成につながった。

・検討をした内容を第5期障害福祉計画の内容に反映させた。

・計画相談支援・障害児相談支援ワーキングのきめ細やかなモニタリングの対象者について検討をし、現場の意見を反映させた。

## 2 今年度の振り返り及び評価について

### 【今年度、協議会活動を通じての振り返り(メンバーの感想・意見)】

メンバーが協議会での活動を通じて感じたことや気付き、今年度部会・ワーキングの取り組みに関すること、長岡市協議会の運営や体制に関する課題・意見等

- ・参加することで、現状や体制、他の相談支援事業所の状況が分かった。
- ・部会の取り組みは重要。
- ・災害の対応が意識できた。
- ・市の包括支援センターの状況把握ができた⇒日頃から介護保険へ移行する人など、包括との関わりを意識するようになった。
- ・地域づくりが大切だとわかったが、イメージができない不安もある。
- ・指定特定の相談支援事業所も委託相談の業務が理解できた。
- ・地区割りの話が、トップダウンではなく、相談支援事業所のヒアリングから出てきた話だと改めてわかった。
- ・相談体制部会＝地区割りのイメージだった。
- ・高いところから見て、どうしたらいいかが見える部会。
- ・モニタリングの標準化⇒意見を取り入れながら実行に移すことができた。
- ・丁寧に進んでいたイメージがある。また、振り返りをおこないながら進めていたイメージがある。プロセスを受けて決定している印象あり。
- ・グループワークで協議をしたことはよかった。また、検討のテーマがハッキリしていた。
- ・今後児の体制とどのようにリンクさせていくか。
- ・相談体制部会を通して、者と児が少しつながった感じがする。
- ・障害福祉計画への反映ができた⇒意見を反映する部分がピンポイントでやりやすかった。
- ・部会の活動が上手くいくために、事前準備や打合せをしっかりおこなっていた。
- ・部会参加後の復命が大変だった。
- ・相談に関わる人全員から知っておいてもらいたい内容だったし、意見をもらえるとよかった。
- ・スピーディーに話を進めたい(結果がほしい)反面、早いとついていけない。
- ・混乱期の1年だった。

## 【協議会の機能について】

今年度の活動の中で、どのような協議会の機能があったかを確認する。※協議会の機能詳細については別紙を参考。

	機能の有無	確認した機能の内容 (どのような部分が機能であったか、なかった場合はなぜなかったか等)
情報機能	有・無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委託相談の現状を理解することができた。</li> <li>・計画相談ワーキングの経過を共有できた。</li> <li>・市の方針を共有した。</li> <li>・地域づくりの必要性を参加者で理解をした。</li> <li>・包括の状況や子ども家庭センターの動きを共有できた。</li> <li>・現状を伝えることができた⇒課題の発信。</li> <li>・第5期障害福祉計画を作成する際には、部会の考えを発信したり、内容に取り入れることができた。</li> </ul>
調整機能	有・無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部会で話し合われた内容の全てが調整機能。</li> <li>・計画相談、障害児相談の統一や適切なモニタリング頻度に向けた調整。また、モニタリング月の調整。</li> <li>・今後の体制を上司に伝えた。</li> <li>・情報を共有し、知識の差が生まれないように調整をした。</li> <li>・検討事項を1年間でおこなうよう調整されていた。</li> <li>・計画相談ワーキングと共同開催ができ、ワーキングに移行後も、情報のやりとりが調整されていた。</li> <li>・部会の中で、サポステや福祉課などからの情報提供があったなど、他機関とのつながりがあった。</li> <li>・法人への説明をおこなった。</li> <li>・災害リストの作成につながった経過も、調整機能。</li> </ul>
開発機能	有・無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリングの平準化の実施。</li> <li>・キャリアパスの作成。</li> <li>・相談支援体制の見直し⇒地区担当の形。業務内容。職員体制。</li> <li>・市の方針を受けて、相談支援事業所にアンケートを実施したこと。</li> <li>・新しいものをつくるのも楽しいが、あるものを有効活用したほうがよい意識になった(包括を参考に!!)。</li> <li>・第5期障害福祉計画に反映させられる意見をまとめた。</li> </ul>
教育機能	有・無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の業務では聞く機会のないもの(子ども家庭センターや包括の業務、市町村の動きなど)を聞いて勉強になった。</li> <li>・部会に参加すること自体が学びにつながる。</li> <li>・地域づくりの大切さや、委託相談・計画相談の業務を意識するようになった。</li> <li>・相談支援専門員の役割がわかった。</li> <li>・今までは自分の事業所のことしか見えなかったが、長岡市全体を広く見れるきっかけになった。</li> <li>・事業所に戻った時、参加していない職員へ教育機能を果たせていたかは??</li> </ul>
権利擁護機能	有・無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談体制の再編全てが権利擁護機能。</li> <li>・災害時のリスト作成。</li> <li>・地区割り⇒質の高い支援につながるため、利用者の権利擁護につながる。また相談支援専門員の負担軽減になるので、支援者の権利擁護にもなる。</li> <li>・適切なモニタリングの頻度や平準化⇒質の向上につながる。</li> </ul>
評価機能	有・無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状から評価をして、課題として取り組んだ。</li> <li>・部会の振り返り作業⇒活動に対する評価がおこなえている。</li> <li>・グループワークにおいて、提示されたことを振り返って意見をいえること(言いやすかった)。</li> <li>・今の体制では限界!という確認ができた。</li> <li>・基幹センターのおこなったヒアリングの内容(評価)が部会での検討事項につながっている。</li> </ul>

### 3 来年度の取り組みについて

来年度の継続	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 終了
継続・終了の理由	相談体制の再編について、現在まだ整備途中であり、今後も検討をおこなっていく必要性があるため。

※部会を一旦終了とする場合については、運営会議にて協議の判断材料とできるようその理由を明確に記載すること。

今年度の取り組みに対する モニタリングの実施	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	モニタリング実施時期	年 月
---------------------------	---	------------	-----

※ワーキングのみ記載

#### 【振り返り・評価内容を受けて、来年度改善を行うこと】

※来年度継続の場合

会議内容や方法に取り入れることなど、具体的に記載する。

・来年度は、より具体的な内容を検討&情報共有していくため、部会員のメンバーは、相談支援の状況を把握しており、事業所を代表して相談体制について検討できる立場の方から参加をしてもらう。

#### 【来年度の方向性・具体的取り組み内容や引継ぎ事項等】

※来年度継続の場合

・相談体制の再編に関する情報共有(主に委託相談体制の整備、計画相談支援・障害児相談支援の質的整備)と、必要に応じ意見交換をおこなう。  
※人材確保については、相談体制部会とは別枠で、法人の管理者を交えておこなう。